

令和2年度交流内容（交流回数：3回）

実施月	12月	2月	3月
保育内容	楽器あそび	卒園制作	卒園式
交流対象	通園年長児		



令和3年度交流内容（交流回数：6回）

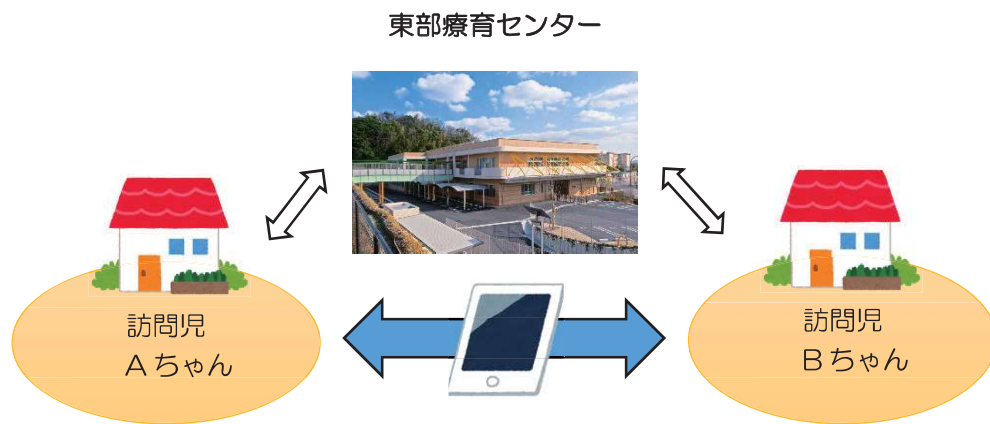
実施月	10月	11月	12月	2月	3月	3月
保育内容	布あそび	楽器あそび	制作	保護者 学習会	年長児クラス との交流会	卒園式
交流対象	訪問児同士			先輩保護者	通園年長児	職員

**4. 結果**

訪問児は、画面から通園児の賑やかな声が聞こえると、画面に視線を向けるなど様々な反応が見られるようになりました。子どもと2人きりで過ごすことが多い保護者にとって、この交流は似た境遇の保護者との情報交換の場になり、不安の軽減にもつながりました。

アンケートでは、「オンラインではお互いに感染リスクがない」「いつでもどこでも簡単に繋ぐことができ、画面越しでも姿が見られてよかった」「同級生のお友だちができた」「子ども同士賑やかな雰囲気に触れることができた」「就学後（訪問教育）、『ぽかぽか』で経験していたのでオンライン交流が楽しいと認識していた」との回答をいただきました。

一方、不便に感じたことは「直接触れ合えないのは残念だった」「音声聞き取りにくいときがあった」との回答でした。新型コロナウイルス感染症拡大により交流の場が一時的に断たれましたが、オンラインを活用したことで、その機会を再び持つことができました。



**5. 考察**

訪問児は友だちを意識して相手に注目したり、耳を傾けたり、表情を緩ませたり、様々な反応が見られ、保護者は子どもの反応を通して、我が子の成長を客観的に見ることができました。また、保護者同士も情報交換ができたため、見通しを持って就学に移行できました。

今回は、交流対象を年長児に絞りましたが、今後は年齢を広げて、誕生会などへの行事や保護者向けの学習会など、オンライン交流の場の提供を広げたいと思います。

**6. まとめ**

重症心身障がい児は、体調管理や身体の状態外部との接触の頻度が低く、遊びや子ども同士の関わりが少ない傾向にあります。一方で、一人一人の反応は小さいながらも子どもたちは、意欲や期待感を持って確かに発信をしています。オンラインを活用したことで、その発信を受け止めることができたことと確信しています。

今後も子どもの成長や変化を保護者と共有しながら、滞ることなく保育の場を提供し続けていきたいと思ます。